

日本医師会 定例記者会見

## 第5回 日本の医療に関する意識調査

(日医総研ワーキングペーパーNo.331より)

平成27年1月28日

日本医師会総合政策研究機構(日医総研)

主席研究員 江口成美

研究員 出口真弓

## 内容

	スライド番号
• 概要	3
• 医療満足度	5
• 医療ニーズと不安	10
• かかりつけ医	19
• 情報提供と介護ニーズ	27
• まとめと考察	30

## 調査概要

	実施時期	国民	
		個別面接調査	WEB調査
第1回調査 (報告書 No.50)	2002年9月	N=2,084	—
第2回調査 (WP No.137)	2006年3月	N=1,364	—
第3回調査 (WP No.180)	2008年7月	N=1,313	—
第4回調査 (WP No.260)	2011年11月	N=1,246	—
 第5回調査 (WP No.331)	2014年8月	N=1,122	N=5,667

### 目的

医療に関する国民の意識やニーズを継続的に把握すると同時に、昨今の医療に関する要望を新たに調査し、今後の医療政策に向けた基礎データを作成する

### 手法と回収

個別面接聴取法: 20歳以上の国民 有効回収数: 1,122

WEBモニター調査: 20歳以上の国民 有効回収数: 5,667

調査時期: 平成26年8月

## 結果サマリー

超高齢社会を迎え、安心して医療が受けられ、健康で長寿を全うできる地域社会が求められている。本調査は、医療の受け手である国民の意識やニーズを把握して、基礎資料を作る目的で実施した。

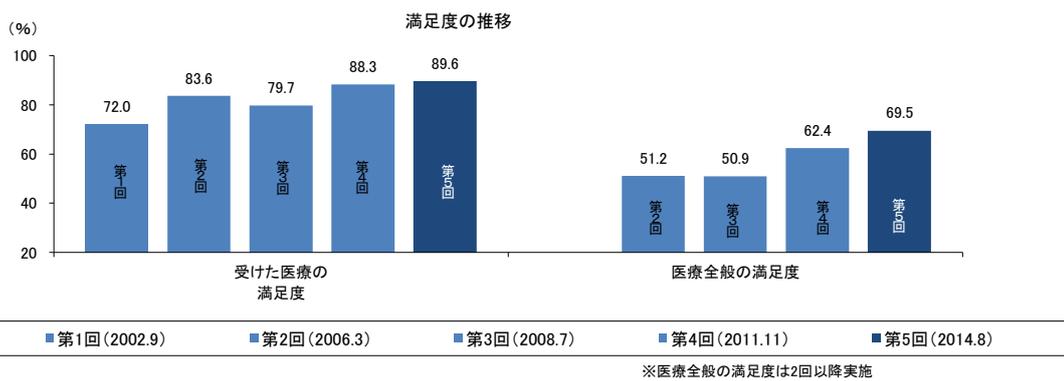
### 【結果概要】

1. 受けた医療の満足度は高く、医療全般に対する満足度(69.5%)も上昇傾向がみられた。患者を尊重した個別性のある医療を受けていると答えた人も増加しており、医師患者関係の一定の向上が見られた。
2. 国民が考える最重点課題は、長期入院できる施設の整備(56.4%)で、前回より増加した。また、町村では都市部より医療に関する不安が強く、地域格差が見られた。
3. 「医師の説明」は受けた医療の満足度に最も大きく影響していた。高齢者も自身の治療方針への積極的な関与を望んでいた。
4. 医療費の負担感を感じつつも医療水準の維持を求める国民が半数以上を占めた。
5. 受診の際、かかりつけ医など決まった医師の受診を最初に望む人は69.9%で7割を占めた。かかりつけ医を持つ国民は全体の53.7%であった。
6. かかりつけ医に対して多くの国民が、専門医への紹介、幅広い診療、健康管理を望み、高齢者は在宅医療や看取りへの要望も高かった。また、かかりつけ医を探すために、診療に関わる情報が求められていた。
7. 介護の場として自宅を望む人は47%であったが、そのうちの4割は家族よりも主として外部の介護サービスを望んでいた。

# 医療満足度

## 国民の医療満足度は高水準

- 受けた医療の満足度は依然高い水準、日本の医療全般の満足度も上昇した

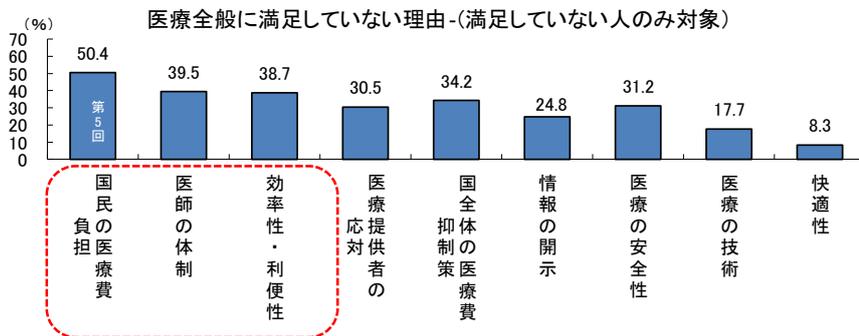
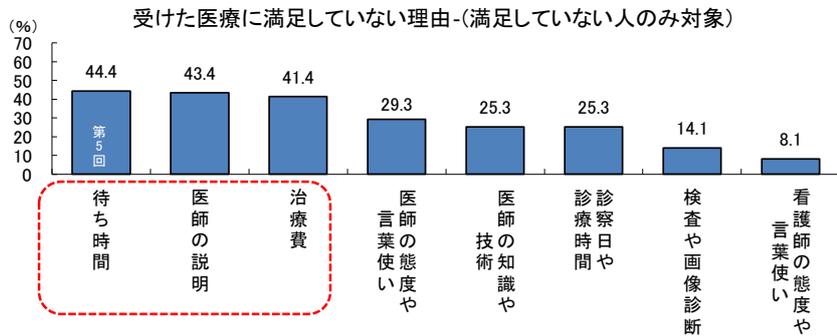


受けた医療の満足度: Q1. 一番最近に受診された医院・診療所や病院についてお伺いします。総合的にみてどの程度満足していますか？  
医療全般の満足度: Q6. あなたは日本の医療全般について満足していますか？  
選択肢には中間回答がなく、満足している、まあ満足している、あまり満足していない(やや不満)、満足していない(不満)の4択。ここでは「満足している+まあ満足している」の合計

【参考】WEB調査の結果は、受けた医療の満足度が81.6% (年齢・地域調整後)、医療全般に関する満足度58.9%であった。

## 不満の理由

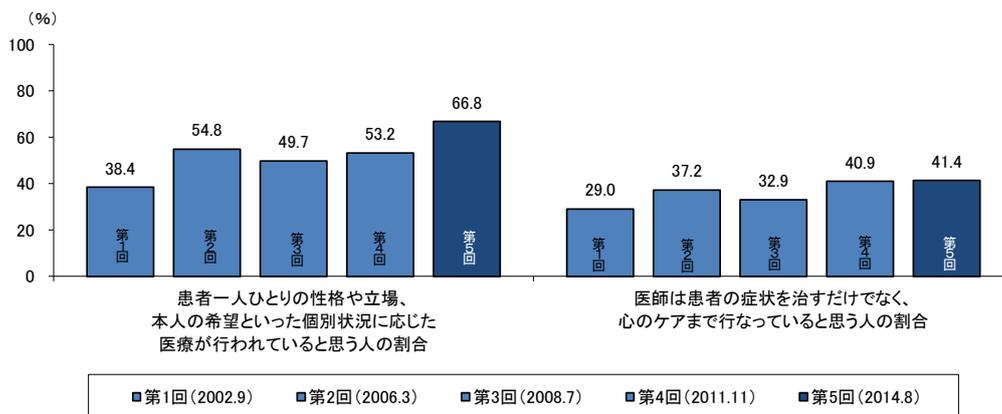
- 受けた医療に満足していない人の理由は待ち時間、医師の説明、治療費
- 医療全般に満足していない人の理由は医療費負担、医師の体制、医療の効率性・利便性



7

## 医師患者関係の向上の傾向

- 患者一人ひとりの希望や状況に応じた医療は向上
- 国民の理解向上と医療側の対応と努力の結果と推測される



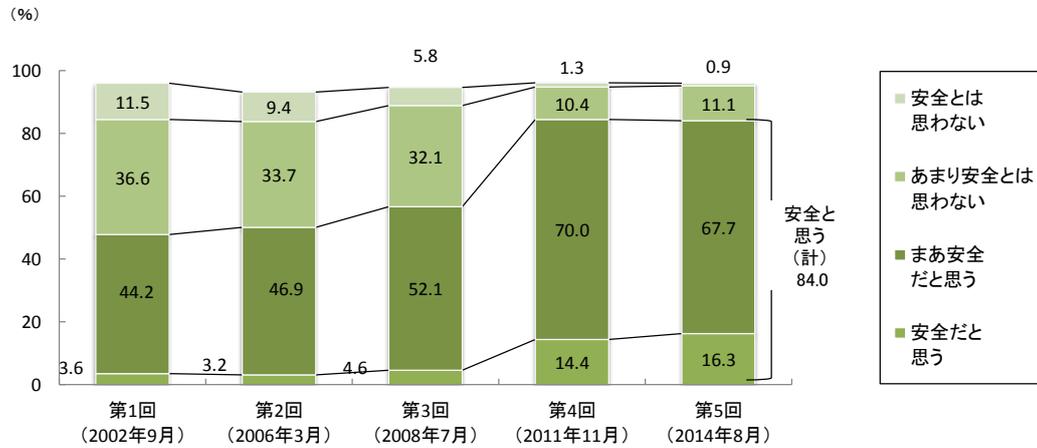
- Q2. あなたは、患者一人ひとりの性格や立場、本人の希望といった個別状況に応じた医療が行われていると思いますか。  
 Q3. あなたは、医師は患者の症状を治すだけでなく、心のケアまで行っていると思いますか。

8

## 医療機関が安全と思う人は8割を維持

- 国民の84% (計) が日本の医療機関は安全と考えている
- メディアの医療過誤報道件数※は510件(2008年)から199件(2011年)、180件(2014年)に減少

医療安全に対する意識



(無回答を除く)

Q7. 全般的に見て、あなたは日本の医療機関の安全性をどう思いますか？  
※読売、朝日、毎日、日経、産経の5大新聞

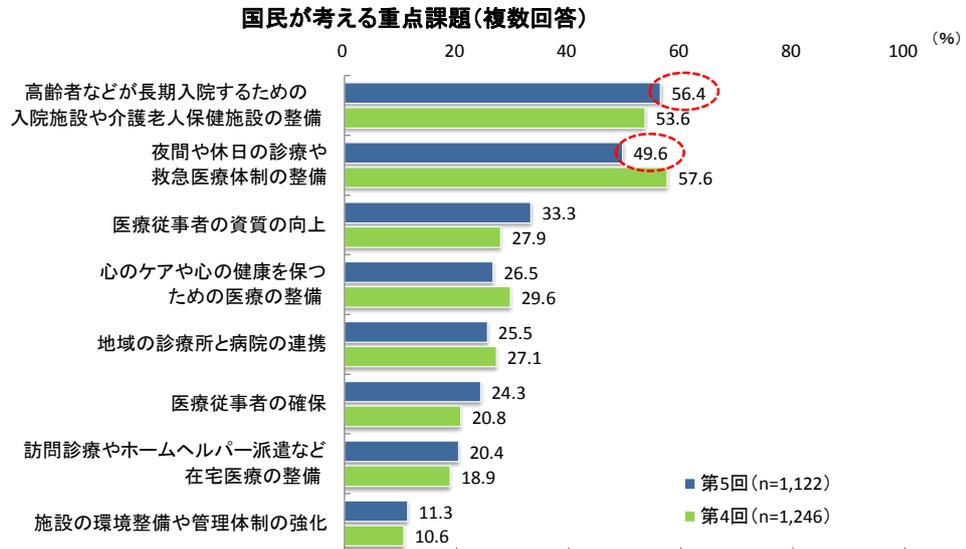
9

## 医療ニーズと不安

10

## 医療の最重点課題は長期入院のための体制整備

- 国民が考える医療の重点課題(複数回答)は、「長期入院できる施設の整備」(56.4%)で前回調査に比べて微増
- 2番目は「救急医療の体制整備」(49.6%)

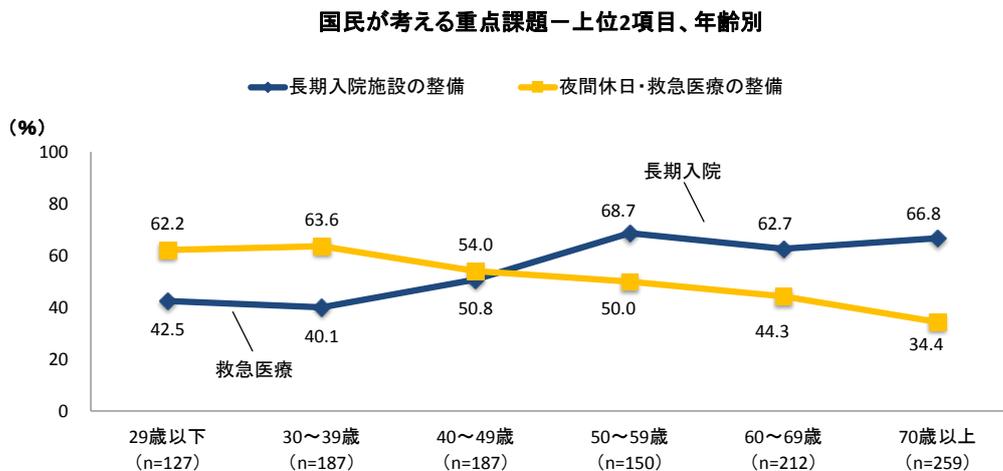


Q8. あなたは、今後の医療提供体制において重点を置くべき点はどのようなことだと思いますか。この中から3つまであげてください。

11

## 重点課題:40代を境に若年層は救急、高齢層は長期入院

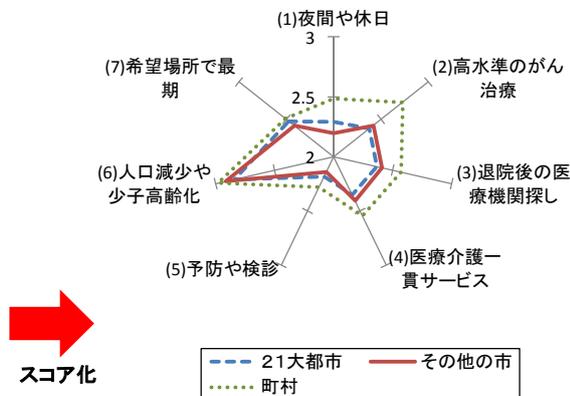
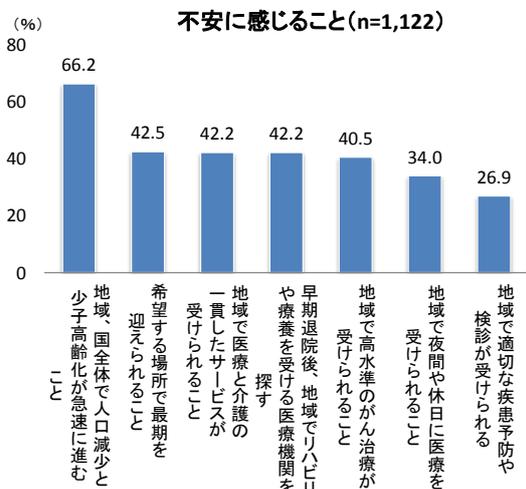
- 40代を境に、若年層は救急医療、高齢層は長期入院が最重要課題と捉えている



12

## 地域医療に関する不安は地方部で高い

- 国民の66.2%が「地域や国全体で人口減少と少子高齢化が進むこと」に不安を持ち、4割が「希望する場所で最期を迎える」、「医療と介護の一貫サービス」などに不安
- 特に、地方部(町村)で医療に関する不安感が強く、都市部との地域格差



スコア化

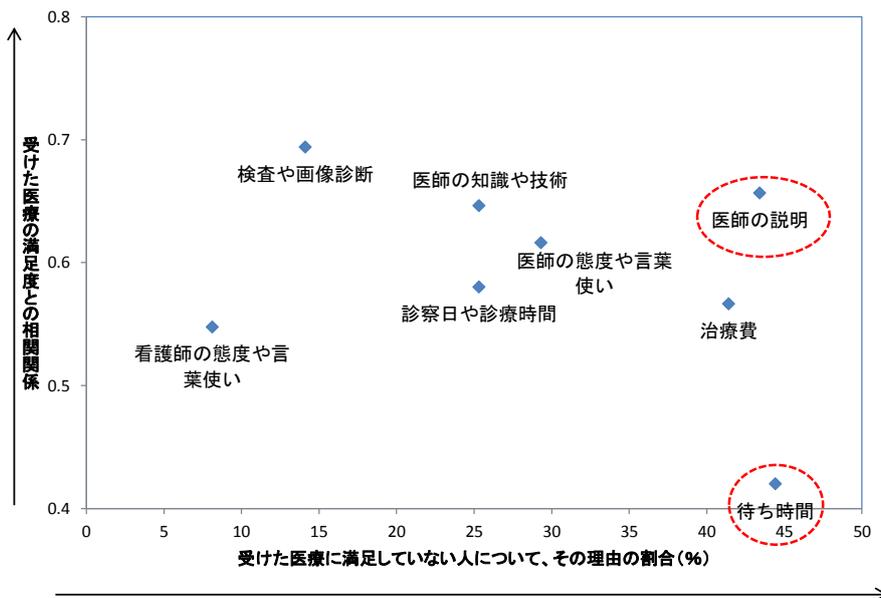
0~4点でスコア化

Q20. あなたはここにあげた項目について不安をどのぐらい感じますか？  
 ①全く不安は感じない、②あまり不安は感じない、③やや不安を感じる、④とても不安を感じる

面接調査(N=1,122)

## 待ち時間よりも医師の説明が重要

- 医師の説明に対する不満は、満足度にも強い影響を与えている

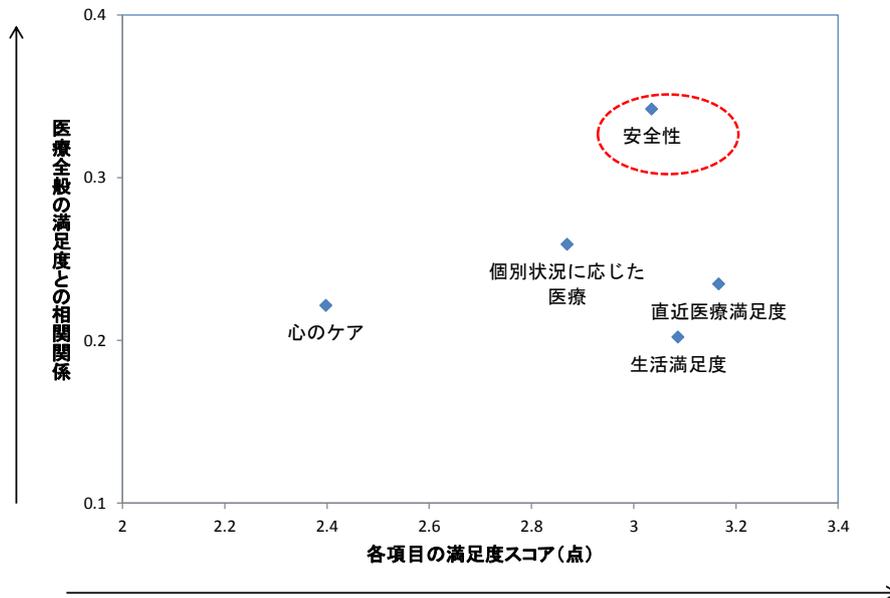


- 横軸=受けた医療に満足していない理由(複数選択)
- 縦軸=各項目と総合満足度(5段階評価)との相関係数

面接調査(N=1,122)

## 医療全般の満足度には安全性への意識が影響

- 医療機関の安全性に対する評価が医療全般の満足度に強く影響している。



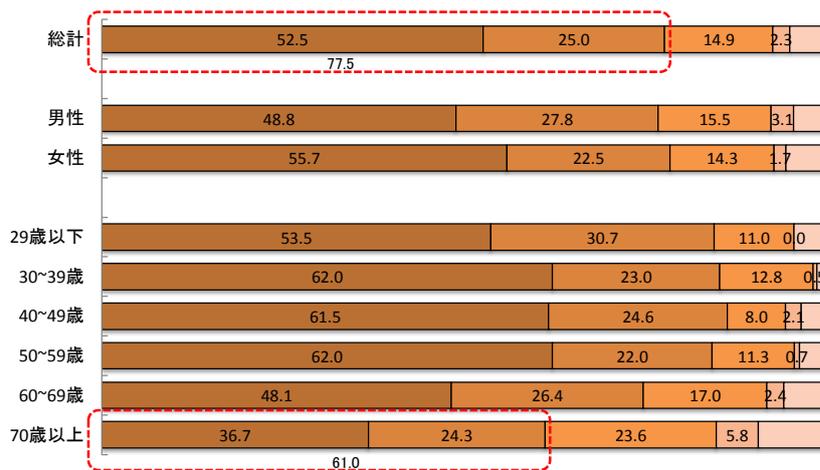
- 横軸＝平均満足度(4段階評価を4、3、2、1点に得点化して算出)
- 縦軸＝医療全体の満足度との相関係数

面接調査(N=1,122)

15

## 病気の治療方針の自己決定意識は高齢者も強い

- 比較的重い病気の治療方針の決定の際、「説明を聞いたうえで、医師と相談しながら自身が決める」ことを望む国民は52.5%。「説明を聞いた上で同意する(25.0%)」も合わせると77.5%。70歳以上の高齢者も61.0%(36.7%+24.3%)にのぼる。



Q4. 比較的重い病気の治療方針の決定に際して、あなたのお考えは次のうちどれに近いですか？

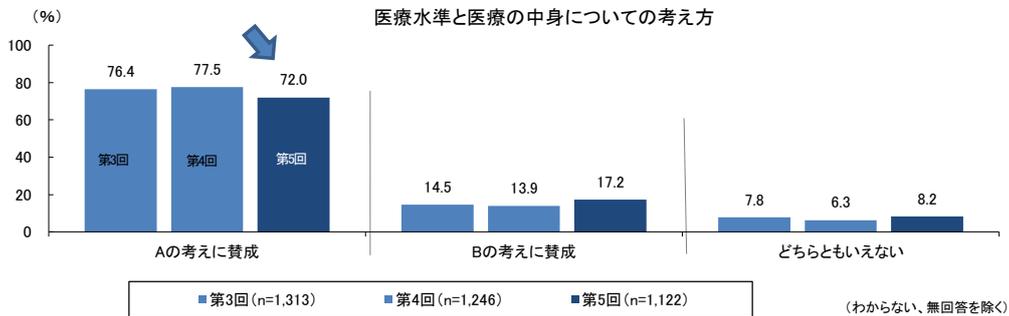
- 複数の治療方法の説明を聞いた上で、医師と相談しながら自身が決める
- 複数の治療方法の説明を聞いた上で、医師が決めた事に自身が同意する
- 複数の治療方法について説明を聞くが、治療方法はすべて医師に任せる
- 医師から治療方法について説明を聞くことなく、すべて医師に任せる
- その他・わからない

面接調査  
(N=1,122)

16

## 7割は「所得に関係なく平等な医療」を要望

- 72.0%が所得の高い低いに関わらず受けられる医療の中身が同じがよいと考えている
- 所得によって医療の中身が異なることはやむを得ないと考える人は17.2%で前回より微増

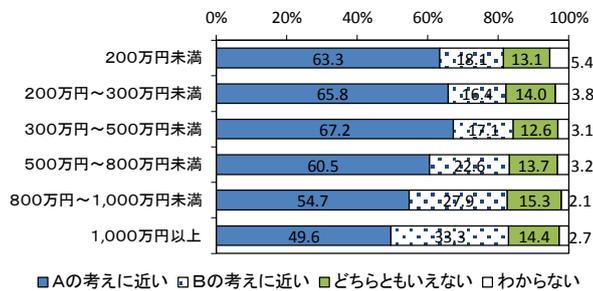


Q11. あなたのお考えに近いのはどちらですか？

- A 所得の高い低いにかかわらず、受けられる医療の中身(治療薬や治療法)は同じであるほうがよい  
 B 所得の高い低いによって、受けられる医療の中身(治療薬や治療法)が異なることはやむを得ない

面接調査  
(N=1,122)

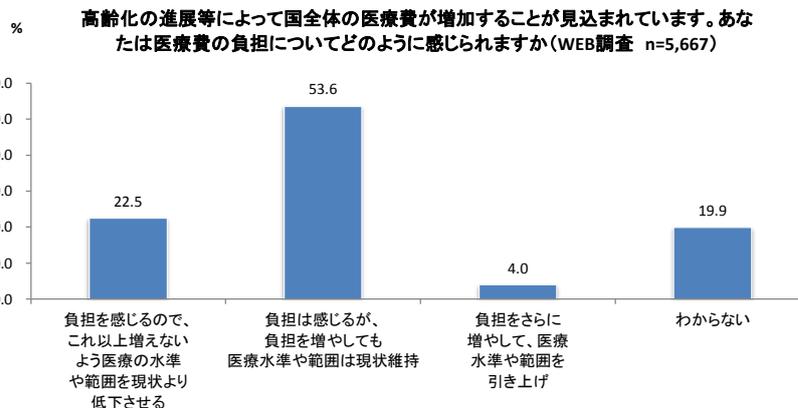
医療保険のあり方について-世帯収入別(WEB)



17

## 半数以上が費用負担が増えても医療水準を維持することを希望

- 高齢化に伴う今後の国全体の医療費の増加について、「負担は感じるが、負担を増やしても医療水準を現状維持すべき」と考える人は全体の53.6%であった。(「わからない」人を除いた場合は66.9%)



Q39. (WEB調査のみ) 高齢化の進展等によって国全体の医療費が増加することが見込まれています。あなたは医療費の負担についてどのように感じられますか。  
 (ア) 負担を感じるので、これ以上増えないように、受けられる医療の水準や範囲を現状より低下させるほうがよい (イ) 負担は感じるが、ある程度増やしても、受けられる医療の水準や範囲を現状維持するほうがよい (ウ) 負担をさらに増やして、受けられる医療の水準や範囲を現状より引き上げるほうがよい (エ) わからない

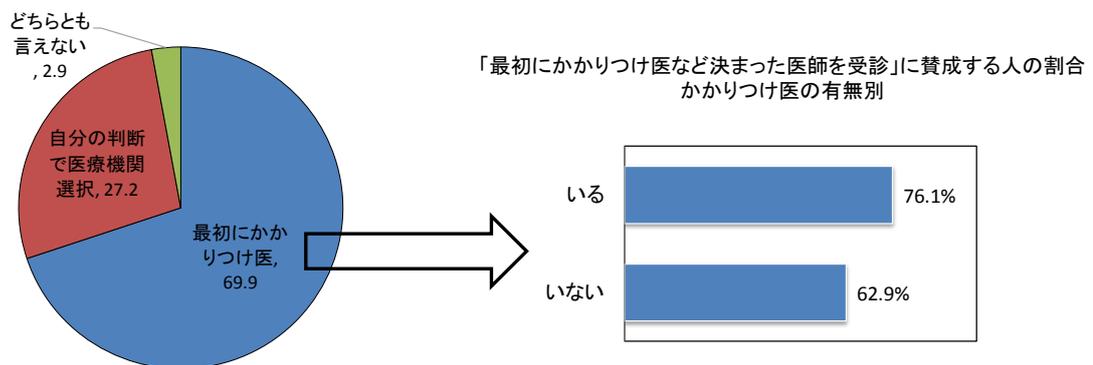
18

# かかりつけ医

19

## 最初にかかりつけ医など決まった医師を受診したい人は7割

- 医療機関の受診の際、「最初にかかりつけ医など決まった医師を受診する」ことを望む人は全体の7割
- かかりつけ医がいる人はいない人よりその割合が高い



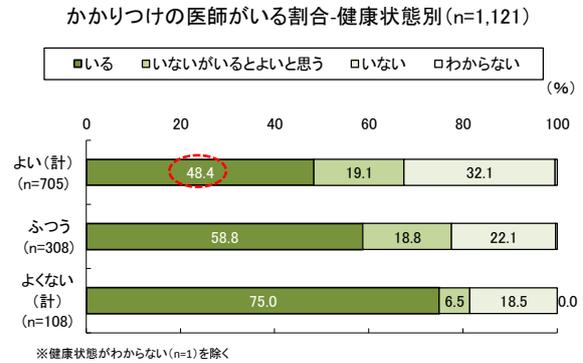
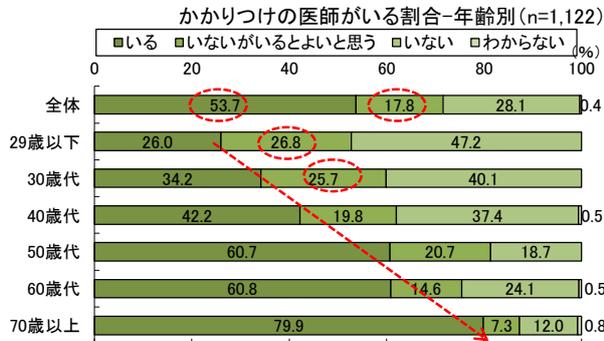
Q21. 医療機関の受診のあり方としてあなたはどちらに賛成しますか。  
A) 病気の程度に関わらず、自分の判断で選んだ医療機関を受診する  
B) 最初にかかりつけ医など決まった医師を受診し、その医師の判断で必要に応じて専門医療機関を紹介してもらい受診する

面接調査 (N=1,122)

20

## かかりつけ医を持つ人は約半数、持ちたい人は2割

- ・ 面接調査では全体の53.7%がかかりつけ医がいると回答(かかりつけ医の定義※)
- ・ 「かかりつけ医はいないがいるとよいと思う」人は17.8%、若年層では25%強
- ・ 健康状態がよいと回答している人も48.4%がかかりつけ医を持っている



※Q9. かかりつけ医は、一般的に健康のことをなんでも相談でき、必要なときは専門の医療機関へ紹介してくれる、身近にいて頼りになる医師のことです。あなたには、かかりつけ医師がいますか。

一般的に、かかりつけ医の定義は「なんでも相談できる上、最新の医療情報を熟知して、必要な時には専門医、専門医療機関を紹介でき、身近で頼りになる地域医療、保健、福祉を担う総合的な能力を有する医師」日本医師会・四病院団体協議会合同提言 2013年

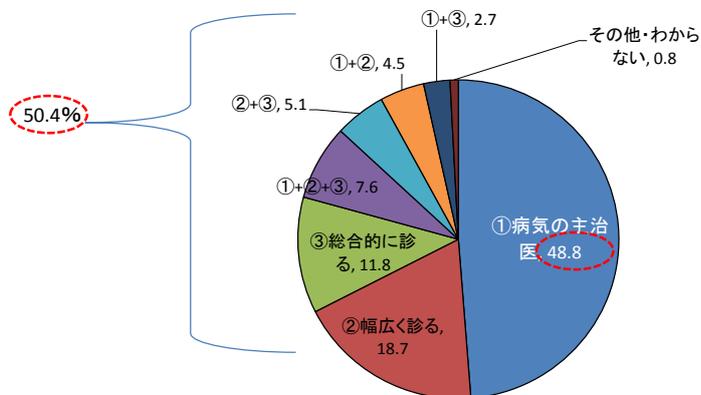
面接調査  
(N=1,122)

21

## 半数は病気の主治医、広く・総合的に診る医師も半数

- ・ 身近なかかりつけ医がいる人と回答した人のうち、その医師が「病気の主治医」のみのケースは48.8%
- ・ ただし、「幅広く診る医師」あるいは「総合的に診る医師」と捉えている人も、合わせると50.4%

あなたのかかりつけ医はどういう医師か (n=603)

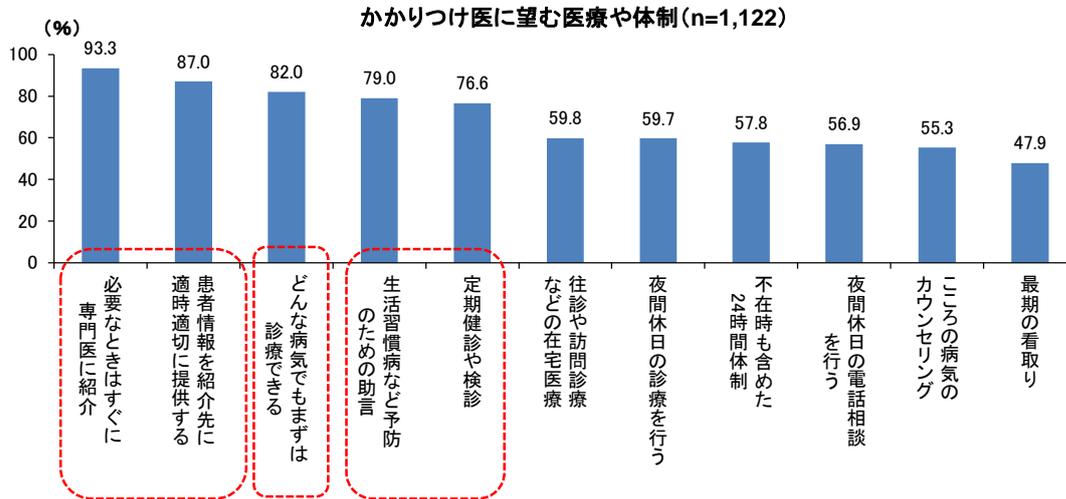


Q9. SQ1 (かかりつけ医は、一般的に健康のことをなんでも相談でき、必要なときは専門の医療機関へ紹介してくれる、身近にいて頼りになる医師のことです。) そのかかりつけ医についてこの中からあてはまるものをすべてあげてください。  
 ① 現在あるいは以前にかかった病気の主治医  
 ② 健康について何か心配がありときに幅広く診てもらおう医師  
 ③ 病気を限定せずに総合的に診てくれる医師  
 その他・わからない

22

## かかりつけ医への国民の要望①

- かかりつけ医へは、専門医への紹介(93.3%)、幅広く診ること(82.0%)、予防(79.0%)や健診・検診(76.6%)などの健康管理を含めて多くの期待
- 在宅医療(往診や訪問診療)への要望は第2回調査(2006年)より16ポイント増加

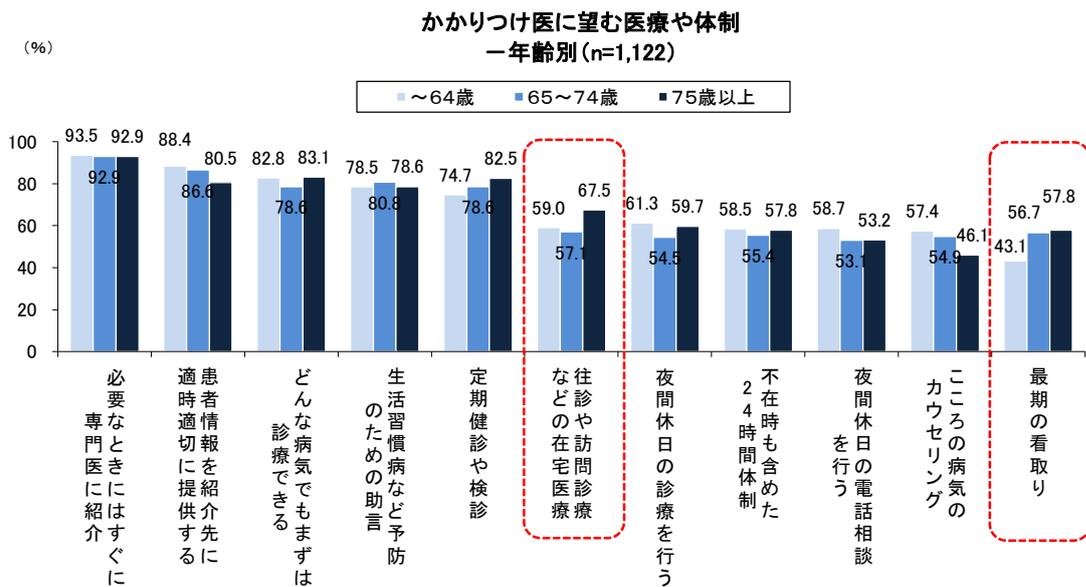


Q10. あなたは、かかりつけ医にどのような医療や体制を望んでいますか。

23

## かかりつけ医への国民の要望②

- 75歳以上の国民で、かかりつけ医に在宅医療を望む人は7割、最期の看取りは6割

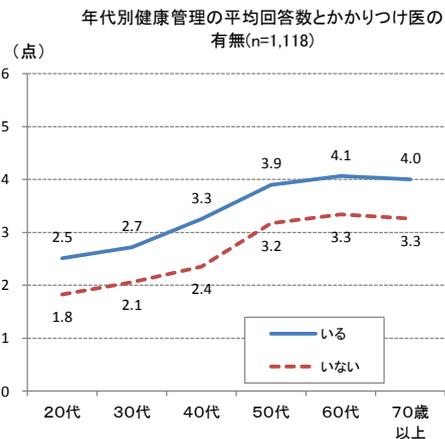
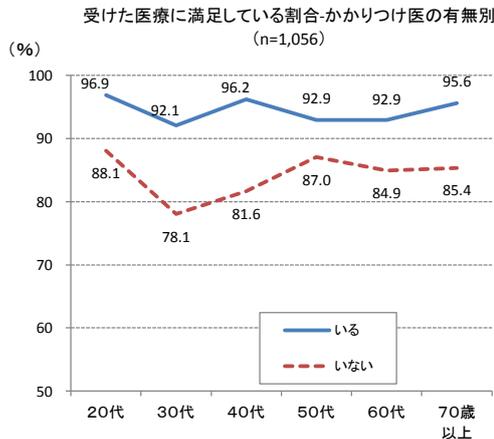


面接調査  
(N=1,122)

24

## かかりつけ医の有無で満足度も健康管理も変わる

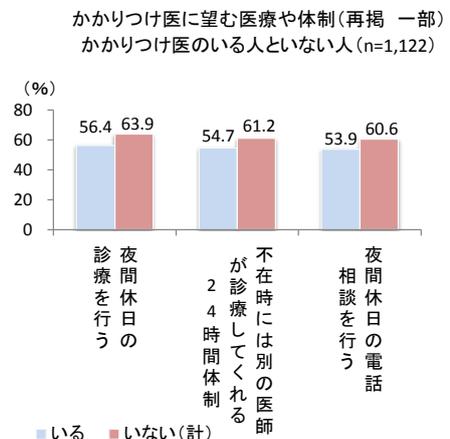
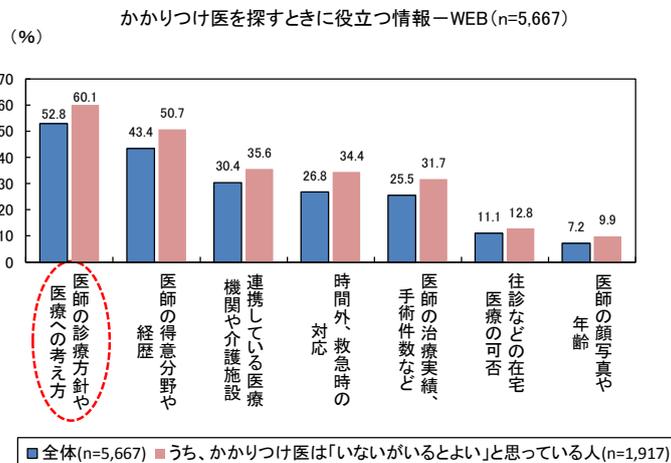
- かかりつけ医がいる人ほど、全ての年齢階層において、受けた医療への満足度は高く、「栄養バランスのとれた食生活に気を付ける」など健康のために日常的により多くのことに気を付けている
- 国民の健康増進のためにもより多くの人がかかりつけ医を持てることが重要



25

## かかりつけ医を持つ国民を増やすには？

- 医師の診療方針などかかりつけ医の診療に関する情報提供が重要。「かかりつけ医がないがいるとよい」と思っている人は、より高い割合で情報を要望
- かかりつけ医がない人(計)は「夜間休日」などの医療への期待が高い。かかりつけ医がグループで対応することが一策



Q19. あなたがご自身のかかりつけ医を探すとき、どのような情報が役立つと思いますか。

26

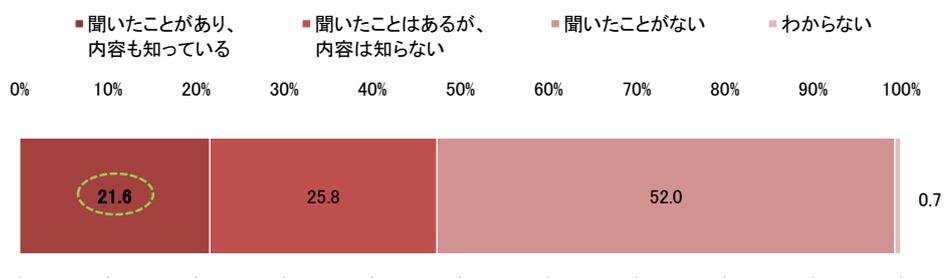
## 情報提供と介護ニーズ

27

### 国民への情報提供の必要性

- 地域包括ケアという言葉を知っている人は全体の21.6%で5人に1人
- 地域包括ケアシステムの構築には地域住民の理解がまず必要

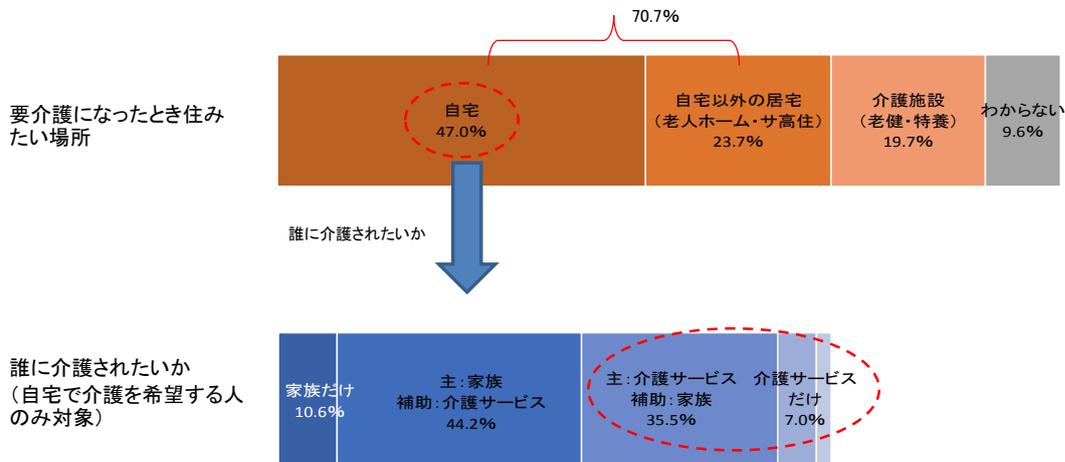
「地域包括ケア」という言葉を聞いたことがあるか(n=1,122)



28

## 7割が自宅や居宅で介護を希望→介護ニーズの今後の急増

- ・ 介護が必要になった際、約7割の人が自宅や居宅型施設での介護を希望
- ・ 自宅を望む場合でも介護サービスは家族主体でなく外部を望む人が4割強を占める



Q16. あなたが、高齢で介護を必要とする状態になった場合、どこに住みたいと思いますか。  
 (ア)できれば自宅に住みたい (イ)できれば老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅などの自宅以外の居宅に住みたい (ウ)介護老人保健施設や特別養護老人ホームなどの介護施設に住みたい (エ)その他  
 SQ. あなたが、高齢で介護を必要とする状態になった場合、どのような形の介護を受けたいですか。  
 (ア)家族だけに介護されるのがよい (イ)家族の介護を中心とし、介護サービスを補助的に利用するのがよい (ウ)介護サービスを中心とし、家族による介護を補助的に受けるのがよい (エ)介護サービスだけを利用するのがよい (オ)その他

面接調査  
 (N=1,122)

29

## まとめと考察①

- 医療満足度と医師患者関係の全般的な向上の背景には、国民の医療への理解と医師の対応の改善があると推測される。今後、両者のさらなる努力が望まれると同時に、現在進められている医療制度改革は、医師患者の信頼関係を損うことなく、さらに強化する方向で進められるべきである。
- 高齢者も含めて、自身の治療方針に積極的に関わることを望む国民の割合は高く(77.5%)、医師の説明が受けた医療への満足度に最も強く影響を与えていた。医師が患者に十分に説明を行うための医学教育の強化が重要である。
- 長期入院できる施設の整備は、国民が考える医療の最重点課題であった。また町村などの地方部の住民は、都市部に比べて医療に関わる不安が強い傾向がみられた。地域医療構想の策定など今後の提供体制の再構築においては、地域の実情に基づいた、住民が安心できる体制作りが求められている。

30

## まとめと考察②

- 国民の7割は身近なかかりつけ医などをまず受診することを望んでいた。また、多くの人がかかりつけ医に専門医への紹介、幅広い診療、予防などの健康管理、在宅医療、看取りなどの要望を持っていた。かかりつけ医がいない人は、夜間休日の対応を期待していた。地域住民のこのようなかかりつけ医への期待に医療側が十分に応えていくことが課題である。
- 医療の機能分化が進められる中、かかりつけ医の役割の重要性が指摘されているが、かかりつけ医を持つ人は、健康増進をより多く実践し、医療への満足度も高いことが示された。若い世代も含むより多くの国民がかかりつけ医を持てるために、医師会や行政による積極的な情報提供と働きかけが求められている。
- 面接調査と今回初めて行ったWEB調査では、回答傾向は同様であったが、調整後(年齢等)も、多くの数値割合に差がみられた。2つの調査の回答者の特性の違いを示しており、医療に関する意識調査の手法による相違点が明らかになった。